

最強の投資手法「スーパーボリンジャー」「スパンモデル」によるシンプルトレード

ドル円、ユーロドル、ユーロ円、豪ドル円、豪ドルドル、ポンド円に関して、今後 1 週間程度の相場予測として、日足と週足分析に限定した、簡単な分析・解説を掲載します。

日足や週足のスーパーボリンジャーは、主に、デイトレード・スイングトレードの大局観の把握や、ポジショントレードの売買判断に用います。分析は、全て、先週末 11 月 2 日終値時点での判断です。また、スパンモデルに関しては、注目すべきポイントだけを補足として付け加えています。尚、内容は、私の有料情報サービスからの一部抜粋です。

さらなる詳細分析やその他の通貨ペアの分析・解説(リアルタイム動画解説を含む)は、こちらをお勧めします。「マーフィーの有料メルマガ&掲示板」 <http://www.eagle-fly.com/mur/>

■ドル円

<<<日足分析>>>

◆スーパーボリンジャー(主に価格分析に重点をおく)

○大局観=レンジ相場

○遅行スパン=陰転継続しており、基調としては、売り優勢

○トレンド判断と戦略=目先、+2ラインと-2σラインの間でのレンジ相場と判断。

戦略としては、目先、+2σラインと-2σラインの間でのレンジ相場を想定したカウンタートレーディングが推奨となるが、上値や下値の目途は、直近のσラインやセンターラインとなる。そして、より詳細な上値や下値の目途の把握には、日足よりも下位の時間軸である 4 時間足等も参考にしたい。

尚、陰転中の遅行スパンがローソク足に接近・接触するタイミングは、ドル上値が重くなりやすい点、注意しておきたい。

◆スパンモデル(主に時間・タイミング分析に重点をおく)

遅行スパンは、ローソク足に沿って上昇してきているが、下放れるタイミングも近いと想定される点、注視しておきたい。

尚、4 時間足スパンモデルでは、赤色スパンの逆行パターンの売りサインが点灯中である一方で、買いシグナルの順行パターンの買いサインが再度点灯している点、注意しておきたい。

<<<週足分析>>>

◆スーパーボリンジャー

○大局観＝レンジ相場、緩やかな上昇トレンド

○遅行スパン＝陽転継続しており、基調としては、買い優勢

○トレンド判断と戦略＝目先、 $+2\sigma$ ラインとセンターラインの間をコアとするレンジ相場と判断。週足終値がセンターラインの上方を推移するかぎり、緩やかな上昇トレンドと判断。ここ最近では、センターラインがサポートとなっていることから、今後も、週足終値がセンターラインをキープし続けるかどうか注視したい。

◆スパンモデル

買いシグナルが点灯継続する中、逆行パターンの売りサインが点灯継続中となっている点に引き続き注目。

■ユーロドル

<<<日足分析>>>

◆スーパーボリンジャー（主に価格分析に重点をおく）

○大局観＝緩やかな下落トレンド継続中

○遅行スパン＝陰転継続しており、基調として、売り優勢

○トレンド判断と戦略＝終値がセンターラインの下方を推移するかぎり、緩やかな下落トレンドと判断。

◆スパンモデル(主に時間・タイミング分析に重点をおく)

赤色スパン、および、売りシグナルの逆行パターンの買いサインが点灯している点、注目。

尚、買いサイン点灯時の上昇ターゲットの最初の目途である青色スパン、そして、センターラインにはほぼ到達済み。

<<<週足分析>>>

◆スーパーボリンジャー

○大局観＝本格下落トレンド継続中

○遅行スパン＝陰転継続しており、売り優勢

○トレンド判断と戦略＝終値が -1σ ラインの下方を推移するかぎり、本格下落トレンドと判断。バンド幅が縮小傾向から拡大傾向に次第に変化してきており、トレンド性が強まっている点に注目。

◆スパンモデル

売りシグナルの順行パターンの売りサインが点灯継続している点に注目。一方、赤色スパンの逆行パターンの買いサインが依然として点灯継続中であるが、猶予期間中の安値である1.1300を週足終値ベースでブレイクすると、順行の売りサイン点灯に変化する点、引き続き注意しておきたい。

■ユーロ円

<<<日足分析>>>

◆スーパーボリンジャー(主に価格分析に重点をおく)

○大局観＝調整の反騰局面、緩やかな下落トレンド

○遅行スパン＝陰転継続しており、基調として、売り優勢

○トレンド判断と戦略＝終値が -1σ ラインの上方を推移するかぎり、調整の反騰局面入りしたと判断。一方、終値がセンターラインの下方を推移するかぎり、緩やかな下落トレンドとも読む。

◆スパンモデル(主に時間・タイミング分析に重点をおく)

売リシグナルの逆行パターンの買いサインが点灯継続している点、引き続き注目。

<<<週足分析>>>

◆スーパーボリンジャー

○大局観＝レンジ相場

○遅行スパン＝ローソク足に絡み、レンジ相場を示唆

○トレンド判断と戦略＝目先、 $+1\sigma$ ラインと -1σ ラインの間をコアとするレンジ相場と判断。

◆スパンモデル

売リシグナルの逆行パターンの買いサインが点灯継続中である点、引き続き注目。売リシグナル点灯時の猶予期間中に付けた安値 126.60 円近辺が週足終値ベースでサポートとなっている。

■豪ドル円

<<<日足分析>>>

◆スーパーボリンジャー(主に価格分析に重点をおく)

○大局観=レンジ相場から本格上昇トレンド入りするかどうかの瀬戸際

○遅行スパン=ローソク足に絡みつつも陽転してきており、買い優勢

○トレンド判断と戦略=遅行スパンが陽転し、終値が $+1\sigma$ ラインの上方を推移し続け、バンド幅の拡大傾向が続くかぎり、本格上昇トレンドと判断。一方、終値が $+1\sigma$ ラインの下方で引けると、レンジ相場に押し戻される可能性が高まる。

◆スパンモデル(主に時間・タイミング分析に重点をおく)

売リシグナルの逆行パターンの買いサインが点灯継続中であるが、最終目標値の $+2\sigma$ ラインに到達済み。

<<<週足分析>>>

◆スーパーボリンジャー

○大局観=レンジ相場

○遅行スパン=陰転継続しつつもローソク足に絡み、もみ合い相場を示唆

○トレンド判断と戦略=目先、 $+1\sigma$ ラインと -1σ ラインの間をコアとするレンジ相場と判断。

◆スパンモデル

赤色スパンの下向き変化時、および、売りシグナル点灯時の猶予期間中の安値を、あらためて上方にブレイクしており、逆行パターンの買いサインが点灯している点、注目。

■ポンド円

<<<日足分析>>>

◆スーパーボリンジャー(主に価格分析に重点をおく)

○大局観＝調整の反騰局面

○遅行スパン＝陰転継続しており、基調として、売り優勢

○トレンド判断と戦略＝終値が -1σ ラインの上方を推移するかぎり、調整の反騰局面と判断する。尚、遅行スパンがローソク足に接近、接触するタイミングは、一旦は戻り売りのチャンスと読む。

◆スパンモデル(主に時間・タイミング分析に重点をおく)

売りシグナルが点灯中となっているが、終値の位置がセンターラインに絡んでおり、判断は中立と読む。

尚、4時間足スパンモデルにて、買いシグナルの逆行パターンの売りサインが点灯している点、注目したい。

<<<週足分析>>>

◆スーパーボリンジャー

○大局観＝レンジ相場

○遅行スパン＝ローソク足に絡み、レンジ相場を示唆

○トレンド判断と戦略＝目先、 $+1\sigma$ ラインと -1σ ラインの間をコアとするレンジ相場と判断。

◆スパンモデル

売リシグナルが点灯継続する中、引き続き、逆行パターンの買いサインが点灯継続している点、引き続き注目。

■「マーフィー無料FX講座」のお知らせ

<https://www.span-model.com/ji/>

短期間でエッセンスを学べる無料コースとなっておりますので、ぜひお試しください。

■「無料メルマガ」のお知らせ

<https://www.span-model.com/mailmaga.html>

相場と友達になる手法を無料レポートで公開中です。

以上です。